

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2003年11月中旬から12月下旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 11月中旬は低位水準へと減少し、11月下旬には魚群が逸散して断続的となる。

(2) 漁場: 11月中旬以降は襟裳岬南沖が主たる漁場となるが、落石南南東はるか沖にも形成される。11月下旬以降は散発的となり、12月上旬には消滅する。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 11月中旬には若干増加するが、11月下旬には低位にまで減少し、12月上旬に断続的となる。

(2) 漁場: 11月中旬以降は南部主体となる。12月上旬以降散発的となり、12月中旬には消滅する。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月中旬には低下傾向となり、11月下旬以降平年並みの水準で推移し、12月中旬以降は断続的となる。

(2) 漁場: 11月中旬以降は鹿島灘・犬吠周辺が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位低下	断続的			
	漁 場	襟裳岬南沖・ 落石南南東沖	襟裳岬南沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位減少	断続的		
	漁 場	南部	南部	南部		
常磐海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位水準	低位水準	断続的	断続的
	漁 場	鹿島灘・犬吠 周辺	鹿島灘・犬吠周 辺	鹿島灘・犬吠周 辺	鹿島灘・犬吠周辺	鹿島灘・犬吠周辺

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

今年は、我が国沿岸域への魚群の来遊パターンが例年と異なり、相変わらず落石の南南東90～100海里付近が主漁場となった。

1) 道東海域

(1) 来遊量: 資源量指数から判断した来遊量の水準は、前期に比して若干低下し、前年の水準をかなり下回った。またCPUEの推移から判断すると、期前半は来遊量が多かったが、後半若干低下した模様。

(2) 漁場: 漁場は、落石南南東沖及び落石南南東はるか沖に形成された。

落石南南東40～80海里付近では、期後半に漁場水温9～12台で漁場が形成された。

落石南南東90～100海里、漁場水温11～12台で漁場が形成され、好漁もみられた。

群れは、濃い～薄い・大～中群。灯付きはやや不良～不良。

(3) 魚体: 大3 - 中4 - 小3が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 資源量指数から判断した来遊量の水準は、前期に比して大幅に低下した。また、前年の水準に比較してもかなり低く、過去14年間と比較して最も低かった。また日別CPUEの推移から判断すると、期前半は比較的高水準の来遊であったが、期後半には極めて低い水準となった。

(2) 漁場: 宮古～女川沖20～80海里の漁場水温16～17台に期前半と期の最後に形成された。

(3) 魚体: 大2 - 中5 - 小3が主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 資源量指数から判断した来遊量の水準は、前期に比して低下した。過去14年間と比較しても上位8番目に位置した。また日別CPUEの推移から判断すると、期前半は低水準の来遊であったが、期後半は高水準の来遊が有った模様。

(2) 漁場: 期のはじめと後半に、塩屋崎～犬吠崎の20～60海里、漁場水温16～18台で漁場が形成された。

(3) 魚体: 大2 - 中5 - 小3が主体。